

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第62回「暁の寺(ワット・アルン)」

【三島由紀夫の小説】

私の周囲にはタイに親しみを感じるという人が多い。そういう人にお勧めしたい小説がある。三島由紀夫の「暁の寺」*1という作品だ。これは「豊饒の海」全4巻の中の第3巻である。ワットは寺、アルンは暁(あかつき)の意味だ。この小説の怪奇なところは、日本人の男子の生まれ変わりが、タイ王室の王女となっている点にある。

もしも生まれ変わるものならば、男が女になっても構わないし、国も自由に選ぶことができる。ただし三島がタイを選んだのは、ごく自然に思える。現実には、タイの人は驚くほど日本人によく似ている。私の長年の友人であるカンチャナ先生(アジア工科大学)には、次のような笑い話がある。

先生は筑波のホテルに宿泊していた。その日はタクシーで隣町の研究施設に向かった。朝ホテルを出たはずなのに、到着したのは昼近くになっていた。その原因は、ホテルの人もタクシーの運転手も、彼女を日本人とっていたためである。彼女は流暢な英語を話すが、日本語はできない。タクシーで、土浦の方面まで遠回りをしてしまったらしい。

【タイ文字へのチャレンジ】

タイに親しみを抱いている日本人にとって、タイ文字が最初の難関である。文字の数は子音文字が42、母音文字が15である。そんなに多いわけではないが、私はマスターしていない。私の笑い話は情けない。上のカンチャナ先生のアジア工科大学はバンコクの郊外にある。その大学の宿舎に滞在していた私は、近くのショッピングセンターまでタクシーで出かけた。帰路はバスに乗ってみせると宣言して、出発前に友人にバスの行先を書いてもらった。工科大学に隣接している「タマサート大学」が帰り道の行先だ。

ショッピングセンターはとても広い。中央にはスカイラークのレストランがある。もちろん看板はタイ語で書いてあるが、マークが同じだ。これはわかる。買物はなぜか言葉が通じなくてもできる。センターを一巡して、さてバス乗り場に行くと、たくさんのバスが並んでいる。しかし、どのバスの行先表示を見ても、メモと一致しない。バスを待っている乗客や、あるいはバスの運転手に聞いても、指示する方向がバラバラだ。親切な人が連れてってくれるのだが、その先には白バス、つまり正規のバスではないようなワゴン車がある。

最後に交通整理をしていた警官に尋ねる。彼は私にタクシーで帰るように勧めて、タクシーを呼んでくれた。結局、私のバス

に乗る作戦は失敗した。タイ語では、手書きの文字と、印刷や看板などの字形が、ちょっと違うように思われる。タイの人には問題なくわかる文字でも、私には判別できなかった。

【英文字の表記が一定しない】

タイの道路標識には、地名がタイ文字と英文字で併記されている。私がタイの友人と電子メールで連絡するときには、サワデーをSawasdeeと書く。このような表記ならば読みやすい。ただし落とし穴がある。タイ語では、日本語のローマ字のような表記法が確立していないという。英文字で音を表現することはできるが、いろいろな流儀があり、混乱しているように見える。

たとえばタイ航空の機内誌はSawasdeeという誌名である。同誌に掲載されているタイ語の簡単表現集によると、Helloはsawasdee krupという。この末尾のkrupは男性が使う場合の丁寧表現で、話者が女性ならばsawasdee kaaという。同じ表現をナツメ社の日常基本単語集(宇戸清治著)あるいは同社のタイ語旅行会話(和泉模久著)では、sawatdii khrap, sawatdii khaと表記している。タイ語の表記の揺らぎは、以前の「新・社会楽」*2でも一度触れたことがある。ただし事態はより深刻になってきた。それはインターネットが急速に普及してきたからだ。タイの会社がドメイン名を取得する場合に、英文字で表記するのでは、あまり正確とは言えない。たとえばアユタヤ商事は、Ayutthayaか、Ayudhyaなのか。



【バンコクは天使の都】

英文字の表記について言うと、バンコクはBangkokと統一されている。ただしバンコクは昔の村の名前だそうで、タイ語ではクルンテープという。正式の名前は寿限無のように長い。クルンは都(みやこ)、テープは天使である。バンコクに到着する際の機内放送を注意して聴いていると、確かにタイ語ではクルンテープと言っていた。不思議なもので、天使の都と思ってバンコクの街を歩いたほうが楽しい。

ちなみに隣国マレーシアの首都、クアラルンプールは、クアラ(河口)、ルンブル(泥)というマレー語である。語感が似ていても意味が全然違う。このあたりがアジアの多様性を示している。タイは仏教、マレーシアはイスラム教の信者が多い。私もまだまだ修行が足りない。

【参考】

*1 三島由紀夫「暁の寺」新潮文庫(み3-23)

*2 新・社会楽(第7回)「タナカさんは銀行家」1995年8月号



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp